

【記者からの質問】

<佐賀空港の自衛隊使用要請関連>

STS／28日の協議に期待していることは？

知事／条件が3つある。排水の問題、価格を示すこと、西側の土地がどうなるか。覚書の見直しに向けて、これらを解決することが大切。この場は重要な意味合いを持つ。誠意を持って協議し、いい結果が出るよう努力したい。

STS／いつまでに3つの条件をクリアしたいのか。

知事／そのようなスケジュール感は持ち合わせていない。これは、防衛省が有明海漁協に向き合えるかがポイント。県は調整をやっていく。

排水対策に有明海漁協が納得できるのか、調整役を果たしていく。

STS／協議の参加メンバーと場所は？

知事／場所は県庁。メンバーは、防衛省の課長、県の調整監といった実務的なメンバーになる。必要に応じて、部長や局長が入る。

STS／知事は参加しないのか。

知事／今回は、実務的な協議の場。もし、課題が生じたら、別途、防衛省の三役と機会をもつかもかもしれない。あくまでも3つの課題について調整する場。

<まん延防止等重点措置 その1>

STS／時短要請などの具体的な措置の内容を。

知事／まん延防止等重点措置は、国の措置。国の基準に基づくことになる。現在、国と協議を開始しているので、確定的なことは言えない。24日の月曜日に詳細を発表したい。

現時点の考えは、国の基本的な考え方である、認証店であれば9時まで、認証店でなければ8時まで、それぞれ酒の提供の有無をベースに、飲食店へのダメージを少しでも食い止めるような形に調整したい。

STS／国の基本的な考え方よりも、少し緩和したような想定か。

知事／国の一律的な基準の中で緩和できるのは、例えば、具体的な内容や支援金の中身、対象とする期間といったもの。

飲食店の時短が、オミクロン株への対策になるのかという迷いはある。飲食店への申し訳ない気持ちもあり、この気持ちが伝わる方法を工夫しているところ。

STS／今回、まん延防止等重点措置のエリアを限定しない理由は？

知事／これは、デルタ株とオミクロン株の性質の違い。オミクロン株は速度が速いので、福岡県と一緒にやっていくことに大きな意義がある。その場合、エリア制限して何とかなるようなものではない。全県を対象とする方が合理的だと判断した。

STS／県境をまたぐ移動の自粛への考えは？

知事／そこはデルタ株とは違う。県境を越える移動自粛をすることで、止まるようなものではないが、抽象化するものでもない。高齢者や基礎疾患がある人に感染させないのがポイント。全国的な基準と県の考え方を、どう調整するかを検討している。

STS／24日は、臨時記者会見を開くのか、対策本部会議で話すのか。

知事／まだ詰めていない。対策本部会議のいいところは、疑問がその場で議論できること。

西日本新聞／知事は、まん延防止等重点措置には、タイムラグがあるという問題やオミクロン株には飲食店中心の対策だけでは感染拡大を防げないと指摘してきた。まん延防止等重点措置に踏み切った理由を聞きたい。

知事／デルタ株には、タイムラグの影響が大きかった。すぐに措置すれば、感染が止まると考えていた。しかし、オミクロン株で状況が変わった。この特性に合った戦略を国が示すべきだというのが、私の考え。

旧来型の措置で対策を取る課題もあるが、今回、着目したのはアナウンス効果や北部九州がともに取り組む意義を見いだしたから。

西日本新聞／病床利用率35%に達した場合、新たな追加対策を考えているのか。

知事／35%が一つの目安だとは考えている。現在、30%ぐらいを維持しているが、中等症が増えている。これから、全体的に感染者が増えるにつれ中等症も増え、35%を超えてくる。そうなる、また別の対策を考えなければならないという基準。オミクロン株の感染スピードを考慮した。

まん延防止等重点措置の適用で、どう感染が推移をしていくのか注視しなければいけない。

朝日新聞／オミクロン株とデルタ株の違いを、感染スピードが早いことと重症化しないことだと言われている。飲食店の話や県境をまたぐ自粛の際も、オミクロン株とデルタ株の違いの話が出る。重症化しないのに、そこまでやる必要があるのかという意味での発言か。

知事／今の段階では重症化しない。今後、数が増えていくと重症化するリスクが増える。医療資源も逼迫していく、そこにリスクを感じている。

今後、オミクロン株がピークアウトしていくのか、別の株に変異するのかわからない。だから、備えておくということ。国が、感染症学者のチームで分析し、対処方針という戦略を出してほしい。

朝日新聞／飲食店の営業時間自粛を行う一方で、支え愛宿泊キャンペーンが継続されている。知事／できるだけ経済にダメージが出ないように、まん延防止等重点措置までに措置をする。24日には、キャンペーンも制限をかけることになるだろう。国全体のルールの中で、できる限り両立させていく方法を模索している。

<新型コロナウイルス感染症関連>

朝日新聞／昨日の会議で、濃厚接触者の判断を県民が主体的にやっていくことになった。今回の感染の中心は若者。若い世代の理解、協力が得られるのか。今まで、それができていなかったから、こうなっているのではないか。若い世代へ伝える方法は？

知事／保健所業務の人的限界があり、濃厚接触者を自己判断してもらうよう協力をお願いした。エッセンシャルワーカーが濃厚接触者になると、たちまち人手不足になってしまう。施設、学校、家庭以外は、濃厚接触者の判断を自分でしてほしい。ホームページに「濃厚接触者のチェックリスト」があり、具体例がわかりやすく示されている。

若い皆さんに、いかに説明して納得していただくかは大事なこと。広報に努めたい。

朝日新聞／市長会の意見交換の場で、12歳未満のワクチン接種は、県が主体になって接種センターを設置してほしいという要望があった。それに対する考えを。また、オミクロン株に関する国への要望は？

知事／昨日、厚生労働省の審議会で、5歳から11歳のワクチン接種の承認がなされた。今後、特例承認になるかどうかというところ。今後の進め方を、県の医師会、小児医会と協議している。国は、逐次、状況の説明をしてほしい。ファイザーワクチンの配布方法、3月接種に向けての留意点、副反応の情報を提示してもらうと、それに合わせて準備ができる。日程だけではなく、それまでに詰めておく課題が多いので。

国への要望は、情報提供を逐次してほしい。

朝日新聞／県の接種センターへの考えを。

知事／12歳未満のワクチン接種は、これから調整する。3回目の接種は、2月の中旬から好生館で実施する予定。館長から、入院を収めるためにも接種を積極的にしたいと申し出があり、前倒しできるよう調整中。

<新幹線西九州(長崎)ルート関連>

佐賀新聞／与党の検討委員会の森山委員長が、知事に会って話を聞きたいと示された。所感を。

知事／お会いしたい。これまで、与党PTや国交省の「幅広い協議」は、協議ではなかった。フ

ルが適当だと押しつけるだけで、我々の主張は聞いてもらえなかった。与党 PT が、話を聞く姿勢を見せ、協議ができると期待を持った。タイミングを見つけていきたい。

<まん延防止等重点措置について その2>

NHK／まん延防止等重点措置適用まで、1 週間のタイムラグがある。飲食店を含め、制限や呼びかけを行うつもりか。

また、飲食店の対応や移動制限は、北部九州で統一の形か、独自にするのか。

知事／適用までは、大人数の宴会はやめ、短時間にとお願いしている。

北部九州でともに取り組むのは、アナウンス効果を狙っている。県境移動は、24 日に説明したい。